

万野原新田地区

まん の はら かい はつ にゅう しょく し ぞく 万野原開発と入植土族

水が不足していた万野原は、江戸時代まで、市内で最も開発が遅れていました。

江戸時代後期、開発に必要な水を確保するために万野用水が引かれると、本格的に開発が始まりました。

明治元(1868)年、約250戸の土族^{※1}が万野原に入植^{※2}し、開墾^{※3}を始めました。この土族を、入植土族といいます。入植土族の住宅は、100坪の土地に10.25坪の草ぶきの建物で、「長屋」と呼ばれる地域に建てられました。

長屋の中心にある長屋通りには、自然石を祀った道祖神があります。

※1 武士階級の者

※2 移り住むこと

※3 山林などを切り開き、田畑などの耕地に変換すること



北山や人穴などの開墾地帯にも、自然石の道祖神が多く見られます



歩く博物館 Nコース<万野原新田> 万野原開墾の歴史コース

市役所6階文化課、郷土資料館(文化会館内)、出張所または市公式サイトなどにあります。

HP トップページ>市民の皆さんへ>教育・文化・スポーツ>郷土資料館>歩く博物館



い ど に ばん ぼり 井戸・二番堀

万野用水は、長い距離を流れてくるため漏水が多く、上流域で使用量が増える田植えの時期などには水が不足し、農業だけでなく生活にも支障が出ました。

そのため、雨水を貯水槽に溜めたり、庭に池を作って万野用水を引き入れたり、深い井戸を掘って地中からわずかに染み出る水を利用するなど、水不足に備えました。

この地域には、庭に井戸や貯水槽が残っている住宅があります。



かつては、大雨が降ると、雨水が富士山麓の傾斜地を下り、万野原の畑が流されたり、さらに下って大宮町で被害が出るがありました。

そのような災害を防ぐために、江戸時代に一番堀と二番堀、明治43(1910)年に三番堀を造り、弓沢川に排水させるようになりました。



歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

料 500円

申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で

他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。

問 文化課 ☎22-1187

✉ e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

有料
ガイドブック

